

## 海外先進博物館における「施設」の多様な活用方法について —オーストラリアの博物館における施設貸与事業について—

国立科学博物館 久保晃一

### 1. はじめに

博物館の施設について、博物館法では「資料を収集し、保管し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をする」ためのものと規定されているところだが、経営効率や運営の合理化を考えた時、それらを「資産」として捉え、活用することは有効な手段だと思われる。施設活用の一例として当館においても平成17年度より「施設貸与」が実施されている。その内容は懇親会やシンポジウム、映画等の撮影などと多岐に渡っており、博物館と社会とをつなげる有効な手段として注目すべきである。施設貸与は博物館運営の貴重な収入源として考えられるだけでなく、見学・学習の面から来館する機会のない人々が来館する絶好の機会となり得、そういった多面的な入口を用意することは広報の観点から見ても非常に重要である。

国立科学博物館日本館は平成20年には国指定重要文化財に指定された。海外の博物館では日本館と同年代かあるいはそれ以前の建築を使用している例が少なくなく、そういった施設の貸与にも積極的に取り組んでいるようである。年間貸与数が100件を超えるとの報告もあり、広報活動についても盛んにおこなわれているのではないかと考えられる。それらの手法について先進施設での実態を調査し、今後の当館での事業運営に活かしたいと考え、本テーマを選定した。

調査先の施設においては担当職員へ質問書をもとに聞き取り調査をおこなった。具体的にはオーストラリア国内の施設貸与の実態、担当者の業務等について伺い、実際の施設について調査を行った。施設については設備、収容可能人数、料金のほかに導線等についても確認するようにした。

### 2. 調査結果

#### (1) 訪問館の概要

**Questacon : The National Science and Technology Centre in Australia**  
クエスタコン : オーストラリア国立科学技術センター

**【訪問対応者】 Mr. Brenton Honeyman**

**(Manager of Science Communication and Strategic Partnerships)**

Questacon はオーストラリア政府 教育・科学・訓練省所管の施設である。科学に関する展示の他にオンラインコンテンツや移動プログラムにて、オーストラリア国内の科学リテラシーの向上を担っている。建物の中央を貫く吹き抜けに沿うように通路が回転しており、それにより緩く連続した展示室は大きく分けて7つある。個々の展示室を貸与することも

可能であるが、多くのイベントはフォイヤーと言われるホール部分を含めて行われるようである。写真は以前に行われたフォイヤーでのカクテルパーティーの様子であるが、備え付けの照明を使った演出が為されている。



施設貸与については2008年からの改修工事の影響により極端に減少しており、過去18ヵ月において10件程度となっている。その種類も

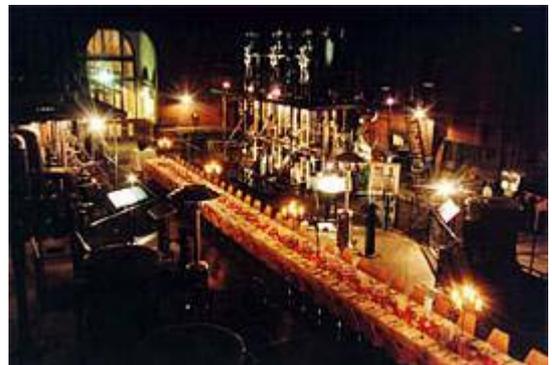
館運営への協賛企業に限られるとのことで、過去の案件を中心にお話を伺った。前述の照明設備についても現在は撤去されている。

**Scienceworks Museum (MUSEUM VICTORIA)**

**サイエンスワークス (ミュージアムビクトリア)**

**【訪問対象者】 Ms. Marisa Vugdeliija (Function & Event Manager)**

ビクトリア州が運営するミュージアムビクトリアには4つの博物館が含まれ、サイエンスワークスはそのうち科学技術を中心に展示を行う施設である。展示の目玉は19世紀後半に汚水処理システムの一部として使われた巨大なポンプなどが展示されている Pumping Station である。カクテルパーティーで定員200名の Engine Room と定員450名の Boiler House から成り、煉瓦造りの建物は空調が効かない等の欠点はあるものの、館内でもっとも人気のある貸与スペースである。上記ポンプは歴史的な資料であるにもかかわらず、施設貸与時はその上でミュージシャンが演奏することもあるそうだ。その他に定員160名のプラネタリウムを持ち、企業のPRイベントなどに貸与がなされている。



4台のポンプが並ぶ中、中央を貫くように机を配置。

**Melbourne Museum (MUSEUM VICTORIA)**

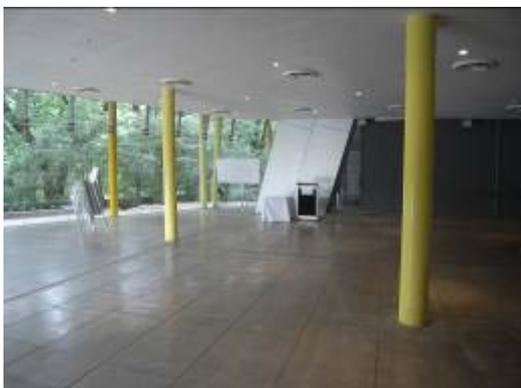
**メルボルン博物館 (ミュージアムビクトリア)**

**【訪問対象者】 Ms. Paola Luz (Venue Hire Manager)**

**Mr. Bernard Galeo (Public Programs Officer)**

サイエンスワークスと同じくミュージアムビクトリアのうち、自然科学、文化、歴史などの展示を有する総合的な博物館である。生きた昆虫から心理学に関するものまで展示は幅広い。貸与施設数は11と多く、その組み合わせによりさらにバリエーションが増え、カクテルパーティーでは定員40名から定員2,000名(メインフォイヤー+ウォーク)まで対

応可能である。また導線等に工夫がなされ、開館中の貸与や隣接するスペースの同時貸与も可能となっている。厨房が設置されたスペースがあり、結婚式などに人気があるとのことであった。



Tree top:上写真の右側には厨房が設置されている。奥には展示室へ続く扉があり、つなげて使用することも可能。またテラスへも出ることが出来るため結婚式などに人気のスペースである。



2009年11月にオープンした展示室 WILD : 700 体以上の個体が展示されている。ここでのパーティー開催も可能。

## Australian Museum

### オーストラリア博物館

#### 【訪問対象者】 Mr. Mark Connolly (Venue Manager)

ニューサウスウェールズ州立の博物館で設立は1820年代とオーストラリア国内で最も古い。メルボルン博物館同様、自然科学から文化、民族まで幅広く展示されている。有名な展示として様々な生物の骨格標本を集めた Skeltons Gallery があるが、こちらは施設貸与でも人気のスペースとなっている。歴史的建造物であることから什器類は可動式のものが多く、施設貸与の際はそれらを利用してスペースの仕切りとするなどユニークな工夫が見られた。貸与施設数は6であるが、出入口が重なるなどして同時利用可能な施設数は4程度に限られる。





Skeltons Gallery: 骨格が所狭しと並べてあるが、その隙間をぬってテーブルを設置。バンケットで定員 84 名、カクテルで定員 120 名の会場となる。

左上ミュージアムショップのショウケース及び右上カフェの看板は共に移動させることで壁となり、不要部分の目隠しとなる。当日はオペラ公演への施設貸与の予定があった(左写真)。



## Powerhouse Museum

### パワーハウスミュージアム

#### 【訪問対象者】 Ms. Fiona Bennett (Events Manager)

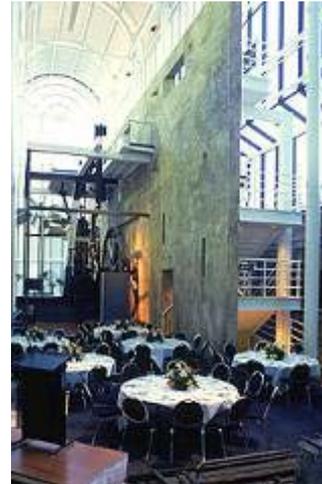
かつてトラムの発電所として使われていた建物を使用しているためこの名が付いた。資料数が 30 万点以上とも言われ、その展示内容は機械技術や化学、航空宇宙工学、さらには芸術、文化、歴史、音楽、交通など多岐に渡る。前述の通り元発電所ということから展示室が広く、貸与スペースもカクテルパーティーで定員 500 名が 2 箇所、定員 1200 名が 1 箇所と大規模な事業の開催が可能である。飛行機や機関車など展示物も大型のものが多く、パーティーなどで話題の提供にも良いかもしれない。一方数十人規模の会議室やシアター、屋外スペースなども複数所有しており、Breakfast meeting や学校団体などに頻繁に利用されるようである。あまりにスペースが広すぎるためプライベートパーティーに向かないのか、個人向けの貸与は年間数件しかないとのこと。



展示室の壁際などには貸与時に使用するためにライトが設置されている。それらを使用することで開館時とは違う雰囲気の間作りが可能となる。



定員 300 人の Coles Theatre。その他定員 96 名と定員 50 名のシアターもある。



The atrium にはボルトンとクックのチームエンジンが展示されている。開館中は定期的に稼働するが、貸与時にパフォーマンスとして稼働することも可能。

## (2) 結果

国立科学博物館での施設貸与事業については過去 4 年間の実績から、その利用者の目的のほとんどは「撮影」「展示会」「セミナー」であるが、オーストラリアではそれ以外の目的として「飲食を伴う会合」「会議」などがある。訪問館で収入の高い順に施設貸与の目的を並べると「撮影」「飲食を伴う会合」「会議・セミナー」となるようだ。「飲食を伴う会合」とは結婚式や企業のパーティー、食事を取りながらの会議などが当てはまり、それらは施設利用料以外の部分でも収入が見込めることから上位に並んだと考えられる。従来から利用が見込まれる「撮影」は別として、「飲食を伴う会合」について利用頻度を上げることが今後の施設貸与事業の有効な展開例として考えられる。本項では各施設で伺った話の中から特に「飲食に伴う会合」への貸与を中心に考え、留意点を述べる。具体的な数値等は別途「比較表」として添付した。

### ①マーケティング担当者について

施設貸与について現在、運営を停止している Questacon を除いて訪問館すべてでマーケティングに係る専任の担当者が置かれていた。雑誌やウェブなど広報媒体への広告掲載やイベント会社などへの営業が主な仕事となるようだが、市場の動向を鑑み、新たに料理等のプランを改訂するなど業務の重要な柱であると言える。実際のところ 2005 年よりマーケティング担当者を置いたオーストラリア博物館では 2004/2005 年度の収入が \$ 250,857・利益 \$ 38,008 であるのに対し、2005/2006 年度は収入 \$ 388,156・利益 \$ 70,758、2006/2007 年度では収入 \$ 380,033・利益 \$ 136,380 と収入面・利益面で大幅な増額となり、その効果が如実に現れている。

## ②広告について

オーストラリアにおいては博物館施設の貸与は一般的で、様々な箇所で「venue hire」の文字を目にした。費用対効果の観点から最も有効的なものは、やはりウェブページが挙げられるだろう。どの施設もウェブページの比較的分かり易い場所に「venue hire」の文字が見られた。venue hire のページには会場の写真や収容人数などについてまとめられており、借り手が情報収集を始める際に最適である。

日本でも実践しやすい例と感じたが、館内ガイドに「施設貸与のお知らせ」として簡単な連絡先が書かれていた。これは前述の訪問館以外でも、ほとんどの施設のガイドに「venue hire」の文字が見られ、「無料で掲載できる広告」として多数の来館者の目に触れていた。

続いて結婚情報紙やイベント雑誌に博物館施設の広告が多数掲載されていた。結婚情報紙「Bride to be」は発行部数 77,000 部で、街中の新聞販売所などでも売られている。こちらは費用もかかる分、効果も大きいようである。また広報のために専用のブックレットを制作している施設も多く見られ、営業の際に使用されるとのことである。

なおウェブページやブックレットに掲載される写真は、実際の貸与場面(テーブルセットがなされている場面)が掲載されていた。当然のことであるが、これにより借り手にとってもイメージしやすく広報効果も期待できる。



オーストラリアでよく知られる結婚情報紙「Bride to be」広告料は1頁全面4色で\$5,000程度

## ③設備について

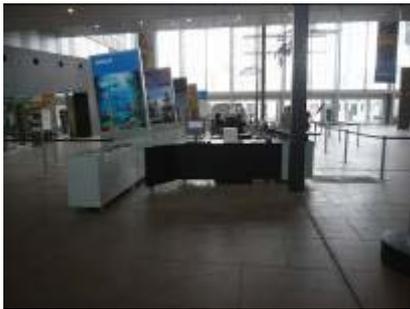
前述の通り、オーストラリアでは博物館施設を貸与し、イベントを行うことは極めて一般的である。そのため訪問館いずれにおいても、設備等に施設貸与のための工夫が見られた。具体例について下記に述べる。

オーストラリア博物館、パワーハウスミュージアム、また過去にはケスタコンにも展示室内に音響・照明設備が設置されていた。それらは展示のために使われることはなく、施設貸与時に会場演出のため使用される。大がかりな装置であるが一般来館者の支障とならない場所に常設されている。写真の右壁面に沿って立っているのがスピーカーで、2階部分は柵の外側に照明装置が数多く並んでいる。

左：通常開館時  
右：施設貸与時



各施設共に移動式の展示ケースや什器が使用されていた。サイエンスワークスでは、通常はハンズオン展示があるメインギャラリーの展示を収納・移動することで定員 400 名のカクテルパーティーが実施できるスペースとできる。またオーストラリア博物館では前述の通りであるが、メルボルン博物館、パワーハウスミュージアムなどでもチケット販売や案内を行う什器の下にはキャスターが付いており、移動の後には数百人規模のカクテルパーティーが実施できるスペースとすることができる。ちなみに各施設共にメインフォイヤーは人気が高く、利用頻度も高いとのことである。



メルボルン博物館メインフォイヤー：各什器にはキャスターが付いていて移動の後には 400 名のカクテルパーティーを実施が可能。

またオーストラリア博物館では展示室内でのカクテルパーティーを実施した際、テーブル代わりとして使用できるよう、展示ケースが強化ガラス及び防水素材にて製作されている。



オーストラリア博物館 Albert Chapman Mineral Collection：展示ケースの上に直接ガラスを置くことができる。

なおメルボルン博物館をはじめ、どの施設も自然史資料の置かれた部屋でも「飲食を伴う会合」への貸与は可能とのことである。ただし相応の警備を各所に配置することで、資料への影響がないよう努めている。また万一に備え、各施設共に資料及び建物に対する保険の加入を借り手に義務づけている。

#### ④ケータリング業者について

施設貸与業務に必然なのがケータリング業務である。ケータリング業者は料理や飲み物の提供だけでなくテーブルセッティングも行う。折り畳み式の円卓を運び入れ（一部施設は所有している）、クロスや装飾にて最低限会場を作り上げていく。博物館施設とケータリング業者の繋がりについては様々な形があり、それらを 3 類型に分類した。手数料を支

払うことについては共通している。

サイエンスワークスはケータリング業者と協議の上、会場と料理を組み合わせたパッケージプランを作成している。それらの広報、営業についてもケータリング業者が担っているとのことであった。業者は館内にカフェを出店している業者で、他の業者は使用することは出来ないことから「排他的連携型」とした。

メルボルン博物館及びオーストラリア博物館では、サイエンスワークス同様に館内出店業者とのプランがまずは優先されるものの、その他の業者が使われる場合もある。また、他業者から貸与の打診がある場合も年間数十件数えられるとのことである。飲食等に係る請求は施設貸与料と合算で請求される。借り手の幅広い要求に応えることが出来るため「柔軟対応型」とした。

パワーハウスミュージアムでは館内出店業者ではない3社をケータリング業者として指定している。業者との交渉は借り手が行うこととし、飲食等に係る請求もケータリング業者が直接行う。業務のほとんどは施設や設備に係ることとなるため「貸会場型」とした。

#### ⑤その他の取引業者について

借り手に合わせ会場を作り上げるためには、様々な業者と取引をおこなっていた。訪問館でお話を伺って出た業種を挙げると「ケータリング／音響・照明／清掃／会場装飾／警備／家具／etc」となる。以下、特に必要な項目について述べる。

音楽や照明、会場装飾の業者については何種類か用意されていた。借り手のニーズによっては従来の業者では対応できない事もあるため、担当者はそういった場合、新規の業者を探し出す。新規に取引のあった業者の情報はストックされ、その先の会場作りのバリエーションを増やすこととなる。家具については各施設の対応は異なっていた。ほとんどの施設がテーブル等の家具はほとんどが外部企業の持ち込みによると回答したのに対し、オーストラリア博物館は必要な備品の約90%を保有していると答えた。これは単に施設貸与事業を始め15年間の蓄積の結果というだけでなく、備品借り上げの為の費用が無くなることで貸与料金自体を安く設定出来るように積極的に購入したためである。

### 3. 今後の課題

前項までにいくつかの事例を挙げてきたが、今後日本の博物館で「飲食を伴う会合」を対象とした施設貸与事業を進めるにあたり検討すべき点を挙げたいと思う。

まず最も重要だと考えられるのが広報である。館内ガイドへの掲載など日本でも取り入れ易いものはいくつかあるが、やはり望ましいのはオーストラリアのようにマーケティングの担当者を置き、重点的に営業を行うことだろう。ただ運営費が削られる施設が多い中、日本では専任担当者の採用は厳しいかもしれない。しかし施設としての魅力を語り、人を呼び込むことでそれ以上の効果が期待できるため、従来の担当者にマーケティングについて学習させることや、イベント会社と組むことなどで、是非補うべき課題である。

次いで設備に関することが挙げられる。前項の事例を全て取り入れるのは大変困難なことであると思われるが、これらは予算の立案時や施設の改修時に検討すべきだろう。オーストラリア博物館の担当者曰く「17時以降一晩もの間、こんなに素敵な空間を空けておく必要はない」とのこと。トイレや空調が完備されており、昼間に来館者に快適な見学空間を提供している施設であれば、夜間も同様に快適な空間として貸与することは可能だろう。かつ博物館施設には魅力的な展示物がある。ホテルや貸会場に「空間」としての魅力が劣るはずはない。「貸与する」ということを前提に積極的に検討する価値はあると思われる。

「ケータリング業者について」の項目で挙げた関係性についての3類型であるが、日本において同事業を進める際は一旦は「貸会場型」とするのが適当であると考え。その型式で運用する中で会場の使用可能性について検討していくべきであり、国立科学博物館でも現在、この形態で施設貸与事業を進めている。しかしながら、この型式では現状のように撮影や会議等に使用されることが多くなりがちである。「飲食を伴う会合」へ貸与を行い、さらなる収入増を狙うためにはそこから他類型への移行が必要であると考え。日本ではケータリング業がオーストラリアほど発達していないため「排他的連携型」に移行した上で、事業の成熟まで1社とじっくりと内容を精査することが望ましい。

また日本では展示室での飲食を禁止している博物館施設も多いが、訪問館の担当者は皆「心配し過ぎることは大事なチャンスを逃すこと」と述べており、適切な人員の配置等で問題は克服できるのではないだろうか。サイエンスワークスのように資料の上でのバンドによる生演奏というのはさすがに難しいかもしれないが、収入の大きさを鑑み是非検討したい点である。

今まで述べたようにオーストラリアでは博物館で「飲食を伴う会合」を持つことはごく一般的で、季節になると結婚式や企業パーティーなどで会場の予約がいっぱいになるそうである。日本ではそのような文化は盛んであるとは言えないが、オーストラリアでも博物館施設の貸与が積極的に行われるようになったのは過去15年ほど前からだそうである。2006年のアメリカの映画「ナイトミュージアム」が公開されてからは、夜の博物館に魅力を感じる方も少なくない。我々が「供給」の姿勢を見せることで、日本においても「需要」の掘り起こしが成されるのかもしれない。

施設貸与事業は施設の効果的な活用方法としてはひとつの方法に過ぎない。しかし「広報的效果」と「ビジネスの成果」を得られる優良な事業であり、日本の博物館でも是非とも進めるべき事業であると感じた。本報告がその展開の一助となれば幸いである。

## 施設貸与業務比較表

項目	Questacon	Scienceworks	Melbourne Museum	Australian Museum	Powerhouse Museum
貸与施設数	1	7	11	6	10
年間貸与件数	10 件程度(200 件程度)	80 件	約 600 件程度	208 件	180 件程度
担当者数	Manager	Manager × 1	Staff × 10 (マーケティング担当を含む)	Venue Manager Sales & Marketing Coordinator	Event Coordinator × 3 Event Sales Manager × 1
内部スタッフ					
外部スタッフ		Director × 1 Sales Manager × 2 Parttime Staffs	Catering Staff	Food & Beverage Manager Parttime Staffs	
担当者の主な業務		・広報 ・設備業者の選択、交渉	・広報 ・設備業者の選択、交渉	・広報 ・設備業者の選択、交渉	・広報 ・借り手との交渉
料金	施設使用料 スタッフ人件費 警備費、清掃費、設備費	施設使用料 (料理代金含む) 設備費	施設使用料 (料理代金含む) 警備費、設備費	施設使用料 (料理代金含む) スタッフ人件費 設備費	施設使用料 (設備費用含む) 警備費
ケータリング	紹介可能	館内出店業者	館内出店業者	館内出店業者	外部業者 (3 社)
値引き	チャリティーもしくは博物館への特段の利益がある場合	個々の案件により館長の承認による	個々の案件により館長の承認による	チャリティーもしくは期日が迫っている場合など 担当者ごとに値引率の定めあり	チャリティーもしくは博物館への特段の利益がある場合
広報	ウェブサイトのみ	ケータリング業者が雑誌等に 広告を掲載	口コミ、Event 見本市などの イベント、営業 etc	ウェブサイト インターネット広告 結婚情報紙	業界紙 (イベント雑誌、イベントプランナーガイド etc)
型式		排他的連携型	柔軟対応型	柔軟対応型	貸会場型